

倫理規範

(原文は英語)

トウイシミレ・テオジーン (23 歳)

ルワンダ<中国浙江省在住>

杭州師範大学

子どもの頃、私の母は地元のリーダーであった。善い行いをし、自分と地域に正直であることの大切さをいつも語ってくれた。「『自分は善い行いをしている』と社会を騙すことは簡単だけど、自分自身をごまかすことはそれよりもっと簡単だ。だからこそ、正直で善い人間でいなさい。いつかそれは自分に返ってくる。」人は自分で種をまいたものを収穫する。嘘に導かれて生きると魂は真の喜びを得る機会を得られないと母は教えてくれた。

私たちの地域では、善い行いをしている人の多くを「イニャンガムガヨ」と呼ぶ。それはキニヤルワンダ語で「高潔な人」を意味する。善い行いをしている人々に囲まれて育ったため、この言葉を耳にすることが多かった。そして、大人たちの会話に参加することができなかった私は、純粹に知りたいという気持ちで耳を研ぎ澄まし、いつも彼らの会話を聞いていた。

私がよく話を聞いていた人の中に、パスカルという名のはっきりとした話し方をする背の高い褐色人男性がいた。幼い私にとって、彼はずばぬけた存在で高潔の見本のような人であり、彼に憧れていた。しかしその後、彼が国外へ逃亡して行方不明になっていることを知った。1994年にルワンダで起きたツチ族に対する虐殺に参加していたからだ。そのことを知って、私は初め衝撃を受け、その後困惑した。自分が高潔の見本としていた人が、人が想像し得る最も邪悪な行為に加担していたなどなぜあり得るのか。彼は高潔を説きながら、多くの人を殺したと言われる人間だった。この事実は、どんな状況が背景にあったとしても、子どもの私にとって理解できるものではなかった。

もし、パスカルがいつも自ら説いていた価値観に基づいて生きていたのであれば、私は衝撃を受けることも失望することもなかったかもしれない。

私たちは、時に人に良い印象を与えるために行儀良くふるまって見せる。しかし、一番大切なのは全ての行動の裏にある心であり、それはどんなにベッドが心地良くても、そこから起き出る動機となるものなのだ。

高潔という価値は、私が非常に大切にしている価値観の一つである。そして、価値観は口先だけの原則で終わってはならないことをパスカルから学んだ。私は毎日、倫理規範つまり人の尊厳を反映していると一般に認められている原理に沿った行動を取るよう心がけている。

私にとって「高潔」とは、口にするのは簡単でも行動として実現するのは難しい、ただの言葉では

ない。それは、自分の日々の行動を常に導く指針である。どんなに小さな行動であっても、私は高潔さを持って行動しようと努力している。

高潔さを持てば、人は自分自身や周りの人に対して正直になる。自分が好むこと、好まないことを本音で相手に伝えることができる。そうすることで、周りの人々も私たちに対して好まないことを伝えることができ、お互い手を取り合って紛争に発展しかねない問題を正し、協調して生きることができるのだ。

高潔であれば、同じ人間として人々を尊重し、彼らの尊厳を認め、彼らの悩みに耳を傾けることができるようになる。人は高潔でないと、自分の悩み以外は無意味なものだと容易に考えてしまう。しかし、実際は人生の喜びを損ねる恐怖や不安、重荷は全て、それが誰のものであれ意味を持つものであり、高潔さを持つことでそれらに気づき、取り組むことができるのだ。

全人類が言葉だけでなく、日々の行動において高潔さに導かれる世界を私は夢見ている。外交が国際政治の中心にあり、政治家は戦争を正当化するのではなく、国民が問題に気づく前にそれを解決し、肌の色や身長、年齢などに関係なく全ての人の意見に耳が傾けられ、皆が理解されていると感じる地域社会。偽善は存在せず、皆が正直であり、間違いを犯してもそれを認めて謝罪することができる世界。これが私の願いである。